

2004年第34週報告分

- 発生動向の概況
- 定点医療機関からのコメント
- 全数届出患者報告数
- 五類定点患者報告数
- 疾病別グラフ(五類定点週報告分)
- 病原体検出情報(表・グラフ)
無菌性髄膜炎
- 年齢階級別報告数
- 保健所別報告数
- 保健所別報告数(定点当たり)
- 感染症豆知識
ツベルクリン反応と結核予防法

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: idsc.tokyo-eiken.go.jp/



(全数報告の疾患)

- ・細菌性赤痢が1件報告された。ソネ菌で、推定感染地はネパールである。
- ・腸管出血性大腸菌感染症が15件報告された。いずれも血清型O157(VT1産生株1件、VT2産生株4件、VT1 & VT2産生株10件)によるものである。VT1 & VT2産生株が検出された2件は、33週に報告された8件と同じ高齢者福祉施設内の発生で、うち1件は死亡例である。
- ・デング熱が1件報告された。推定感染地はバリ島である。
- ・マラリアが2件報告された。熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、各1件で、推定感染地はナイジェリア、インドである。
- ・レジオネラ症が1件報告された。推定感染地は国内で、温泉での感染が疑われている。
- ・アメーバ赤痢が3件報告された。推定感染地は国内2件(推定感染経路:同性間性的接触、不明)、グアム1件(推定感染経路:異性間性的接触)である。
- ・ウイルス性肝炎が3件報告された。いずれもB型で、推定感染経路は異性間性的接触、同性間性的接触、不明、各1件である。
- ・HIV感染症が7件報告された。無症候性キャリア2件、AIDS5件で、推定感染経路は同性間性的接触4件、異性間性的接触2件、不明1件である。

-
- ・31週において腸管出血性大腸菌感染症が1件追加報告された。分離菌の血清型はO157で、VT2産生株である。

(推定される感染地は医師の届出によるものです)

(定点報告の疾患)

- ・流行性耳下腺炎が昨年の同時期よりも多い状態で推移している。

(検出された病原体)

- ・突発性発しん、不明発しん各1名の咽頭拭い液からコクサッキーウイルスA群の、無菌性髄膜炎、手足口病各1名の髄液、風しん疑い、不明発しん症、咽頭炎各1名の咽頭拭い液からエコーウイルスの遺伝子が検出された。また、別の突発性発しん1名の咽頭拭い液からはヒトヘルペスウイルス6型の遺伝子が検出された。
- ・肺炎・気管支炎、上・下気道炎、上気道炎各1名、咽頭炎2名の咽頭拭い液からアデノウイルスの遺伝子が検出された。上気道炎患者からは、さらにヒトヘルペスウイルス6型とエコーウイルス11型の遺伝子も検出された。
- ・デング熱1名の血液からデングウイルス1型の遺伝子が検出された。

- ・胃腸炎・熱性けいれん患者の咽頭拭い液と糞便からヒトヘルペスウイルス6型とコクサッキーウイルスA群の遺伝子が検出された。
- ・大腸炎1名の糞便からノロウイルスの遺伝子が検出された。
- ・菌株で搬入されたMRSA8株のコアグララーゼ型は、Ⅱ型が7株、Ⅲ型が1株であった。
- ・菌株で搬入された溶血性レンサ球菌1株のT型は4型であった。
- ・定点医療機関から搬入された咽頭拭い液からコアグララーゼV型のMSSAが検出された。
- ・性感染症定点等から搬入された血清等56件中17件からクラミジア・トラコマチス特異抗体が検出された。
- ・多摩地区の定点から搬入された感染性胃腸炎2名の便から毒素原性大腸菌O25(ST産生)が検出された。

定点医療機関からのコメント

中野区

- ・A群溶連菌感染症の2例は、いずれも伝染性膿痂症の膿から検出されました。患者は姉妹です。

全数届出患者報告数 2004年 34週

分類	疾病名	東京都分(報告週)				年累計	全国分(診断週)	
		31週	32週	33週	34週		34週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	重症急性呼吸器症候群							
	痘そう							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	コレラ	1		1		6		42
	細菌性赤痢	1	4	1	1	72		313
	ジフテリア							
	腸チフス		1			10		38
パラチフス	1		1		12		47	
三類	腸管出血性大腸菌感染症	19	18	13	15	182		2096
四類	E型肝炎	1				2		(21)
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎					18		(96)
	エキノコックス症							19
	黄熱							
	オウム病					2		31
	回帰熱							
	Q熱					1		5
	狂犬病							
	高病原性鳥インフルエンザ							
	コクシジオイデス症							2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	炭疽							
	つつが虫病					5		97
	デング熱		1	3	1	12		16
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							25
	日本脳炎							1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	ブルセラ症							
	発しんチフス							
ボツリヌス症								
マラリア			1	2	15		37	
野兔症								
ライム病							1	
リッサウイルス感染症								
レジオネラ症		1		1	12		86	
レプトスピラ症	1				2		(2)	
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	2	1	3	90		358
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1		4	3	38		179
	急性脳炎			1		4		(41)
	クリプトスポリジウム症					5		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病					10		103
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					5		37
	後天性免疫不全症候群	15	8	7	7	287		700
	ジアルジア症	2		2		16		53
	髄膜炎菌性髄膜炎					4		17
	先天性風しん症候群					3		5
	梅毒	2	2	2		43		303
	破傷風					1		58
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1			5		34	

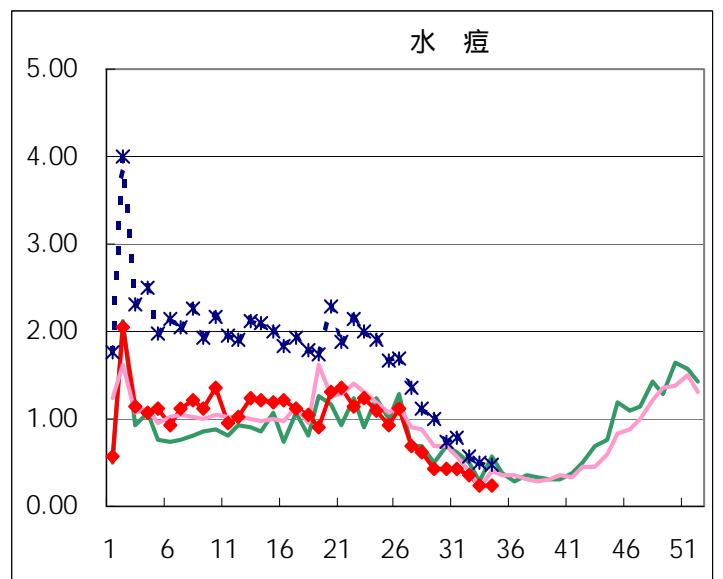
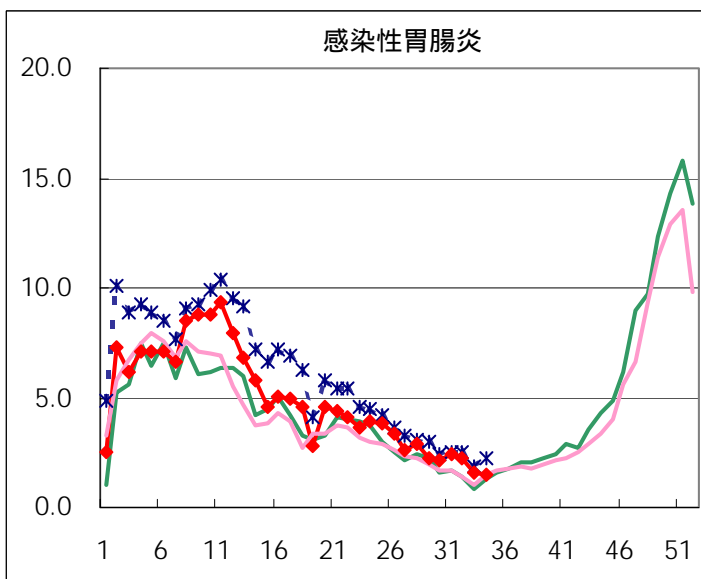
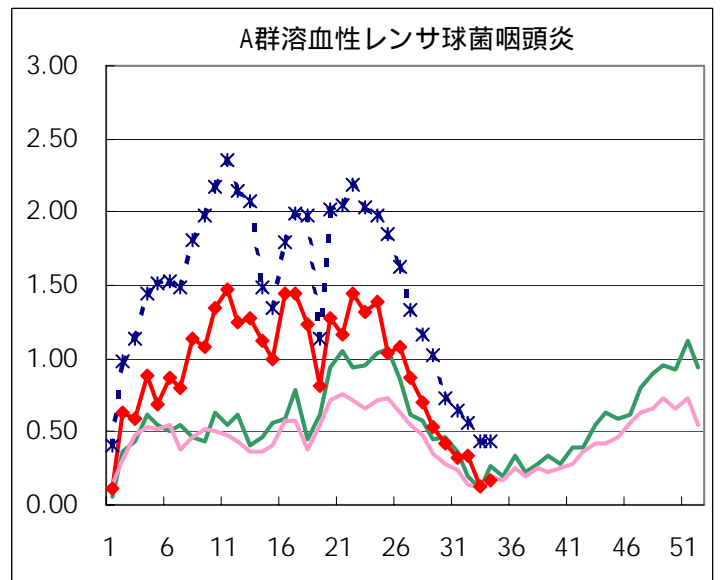
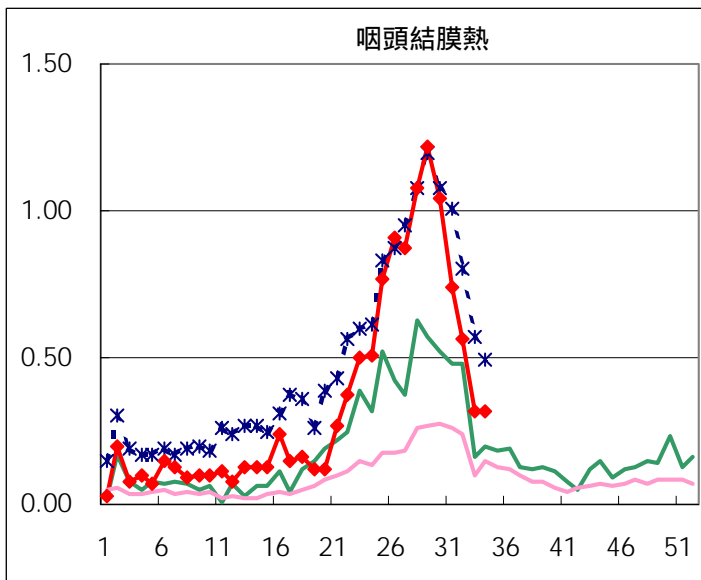
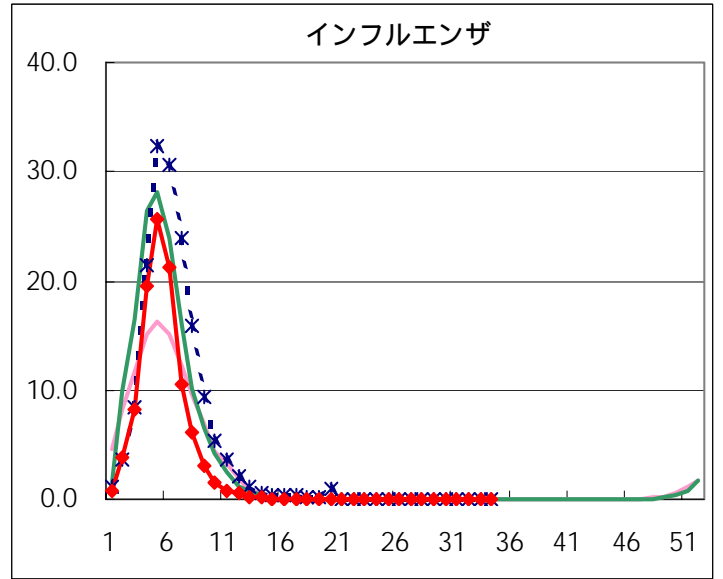
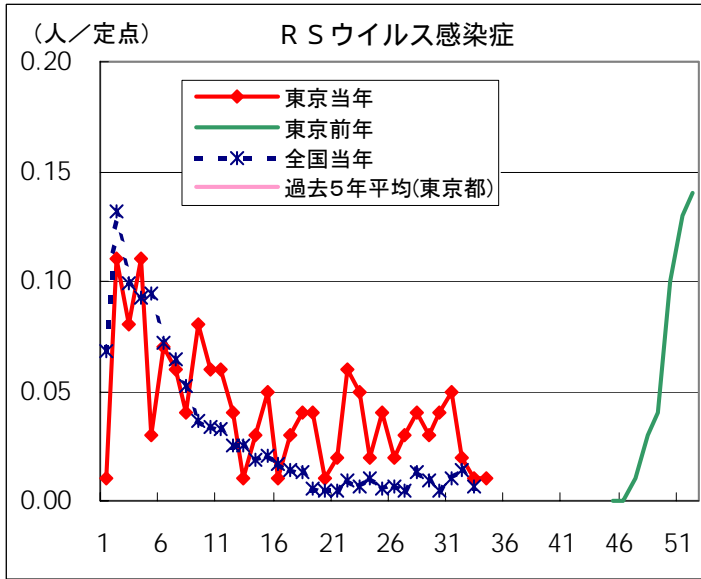
2004/8/31集計(カッコ内の数値は前週分である)。

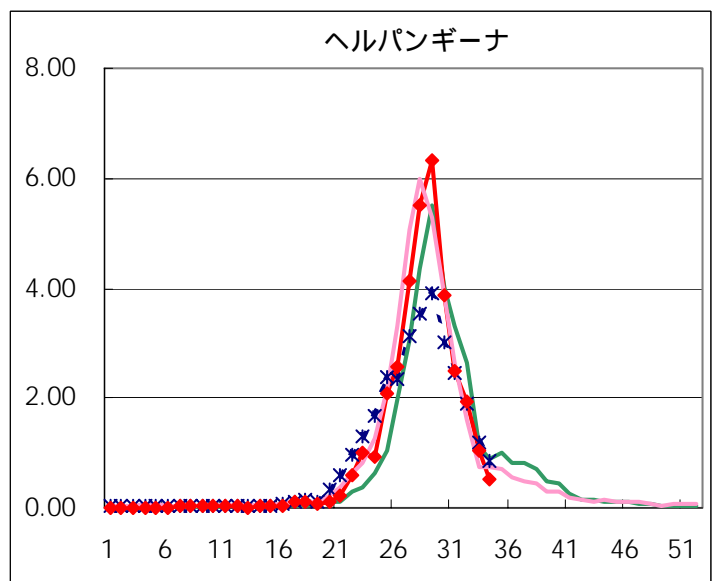
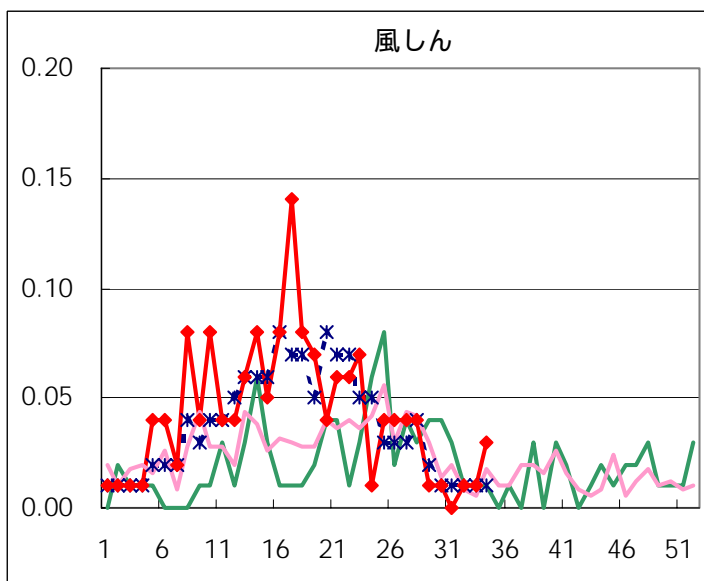
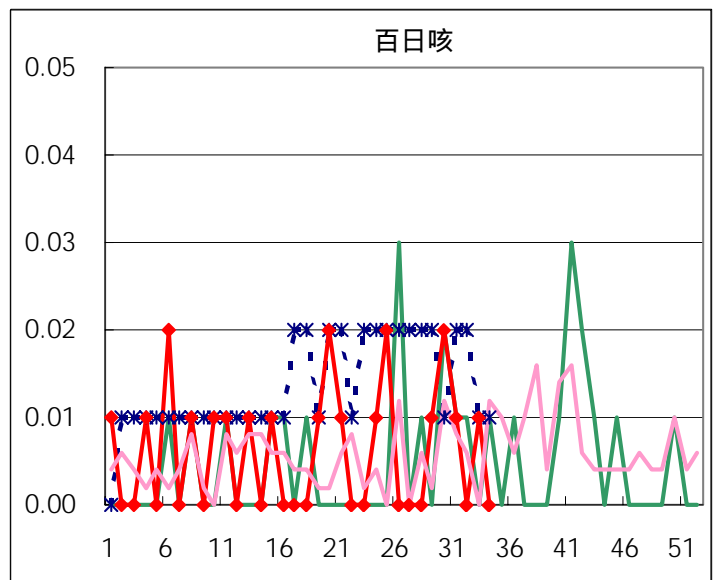
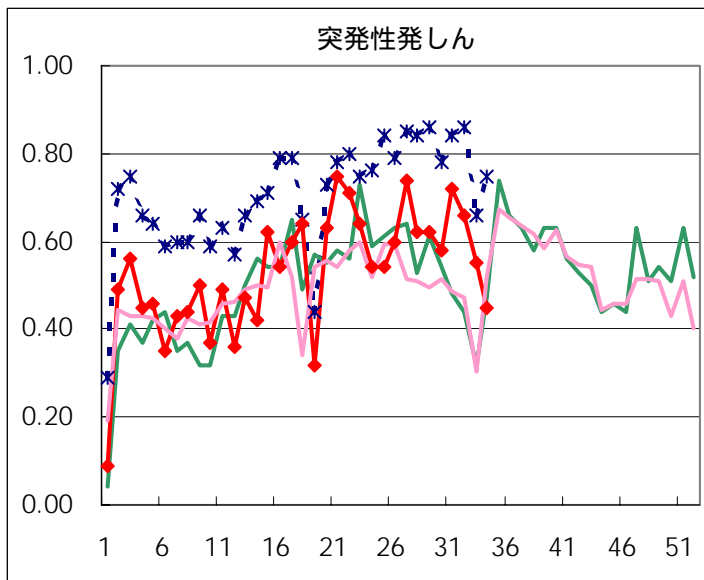
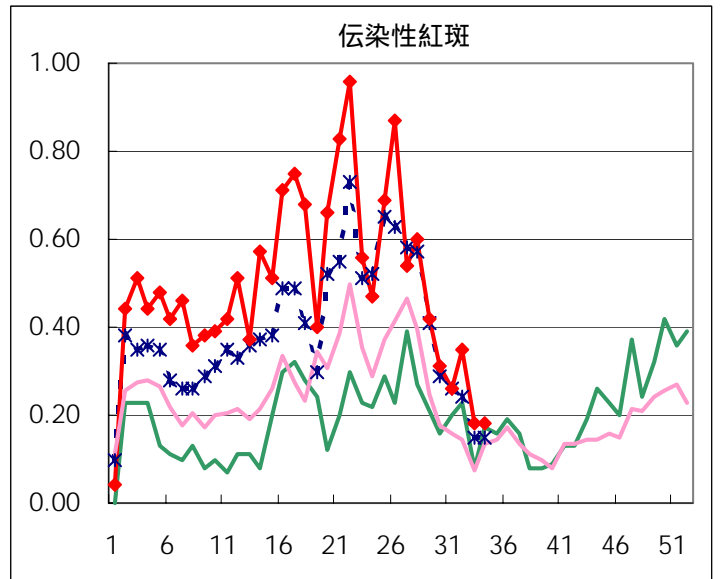
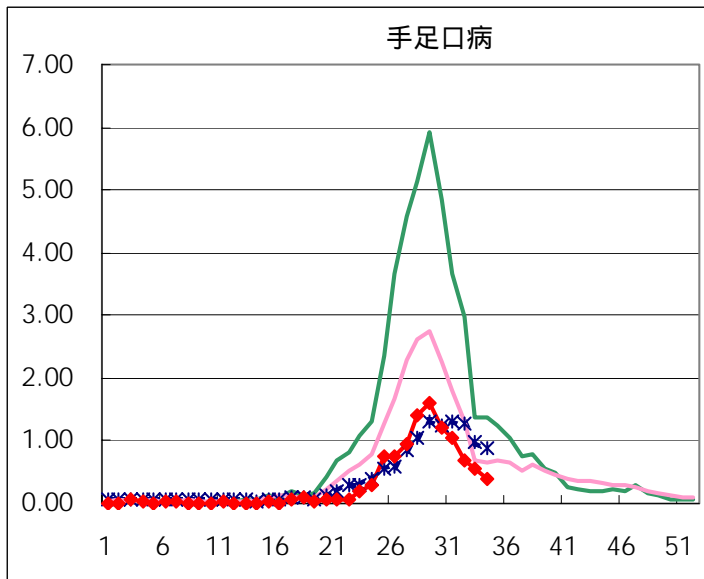
五類定点患者報告数（男女別）

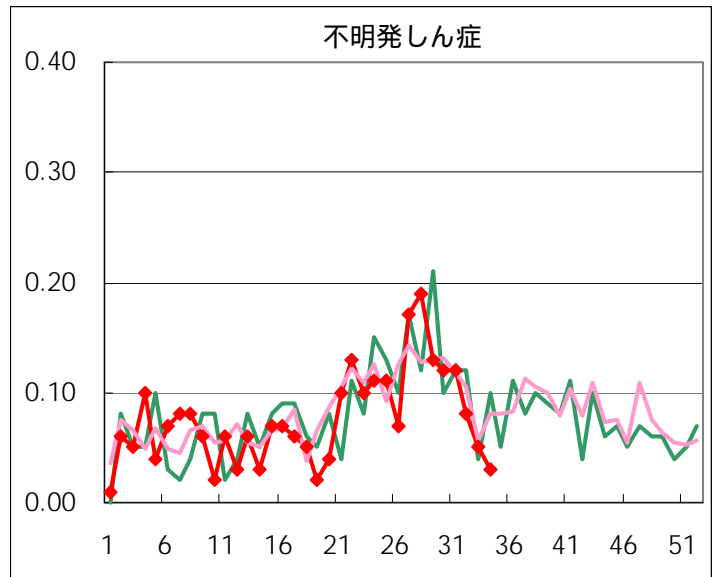
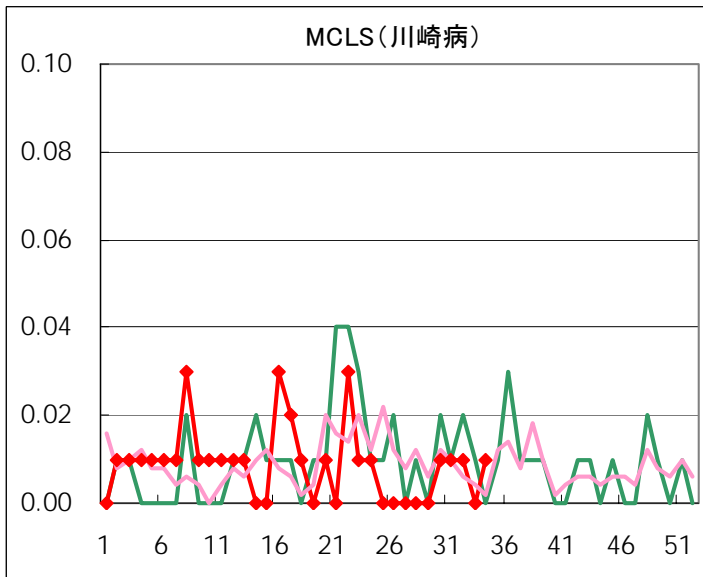
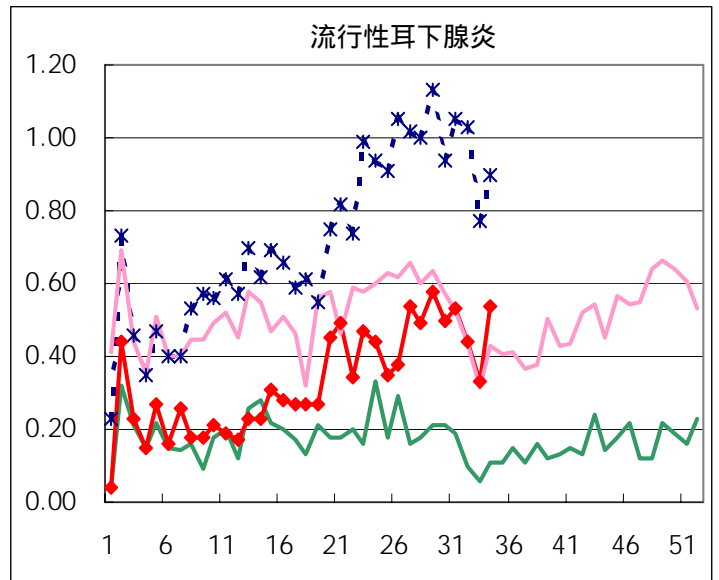
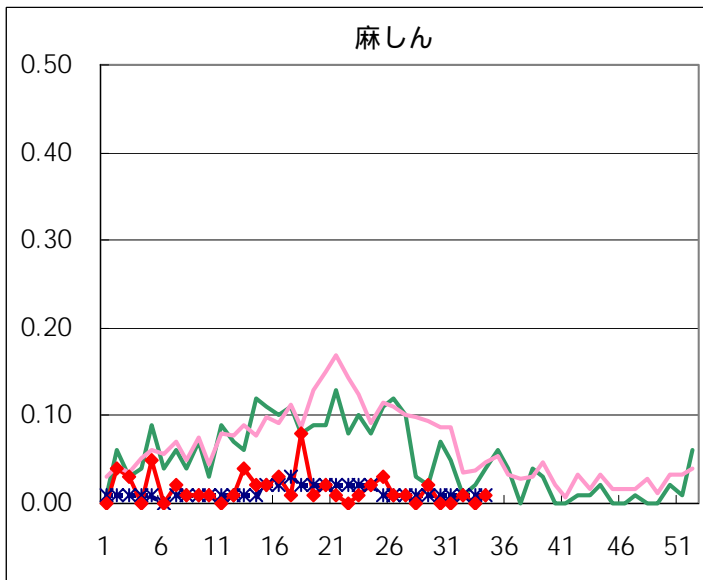
疾病名	性	2004年				4週合計	年累計
		31	32	33	34		
RSウイルス感染症	男	5	2	1	1	9	112
	女	2	1	1	1	5	87
インフルエンザ	男						9,163
	女						9,022
咽頭結膜熱	男	59	35	28	24	146	910
	女	46	45	18	21	130	786
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	29	29	13	8	79	2,379
	女	16	19	5	16	56	2,061
感染性胃腸炎	男	179	168	124	116	587	12,323
	女	162	153	104	94	513	11,501
水痘	男	33	15	20	21	89	2,532
	女	28	34	15	14	91	2,201
手足口病	男	81	63	43	28	215	822
	女	68	36	33	27	164	665
伝染性紅斑	男	17	26	15	11	69	1,147
	女	20	23	11	14	68	1,230
突発性発しん	男	56	43	44	33	176	1,309
	女	46	51	34	31	162	1,245
百日咳	男	1				1	15
	女			2		2	13
風しん	男				2	2	116
	女		1	1	2	4	94
ヘルパンギーナ	男	185	149	76	39	449	2,500
	女	171	128	72	34	405	2,331
麻しん(成人麻しんを除く)	男		1			1	34
	女				1	1	32
流行性耳下腺炎	男	40	36	22	32	130	884
	女	35	26	25	45	131	710
不明発しん症	男	9	4	3	1	17	183
	女	8	7	4	3	22	178
MCLS	男	1	1		1	3	19
	女	1			1	2	21
急性出血性結膜炎	男						2
	女						3
流行性角結膜炎	男	11	13	9	7	40	270
	女	6	5	4	8	23	227
細菌性髄膜炎	男		1			1	7
	女						2
無菌性髄膜炎	男		2		1	3	11
	女			1		1	16
マイコプラズマ肺炎	男	1				1	40
	女		1			1	39
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	男						1
	女						2
成人麻しん	男		2			2	8
	女	1	1			2	5

疾病別グラフ(五類定点週報告分)

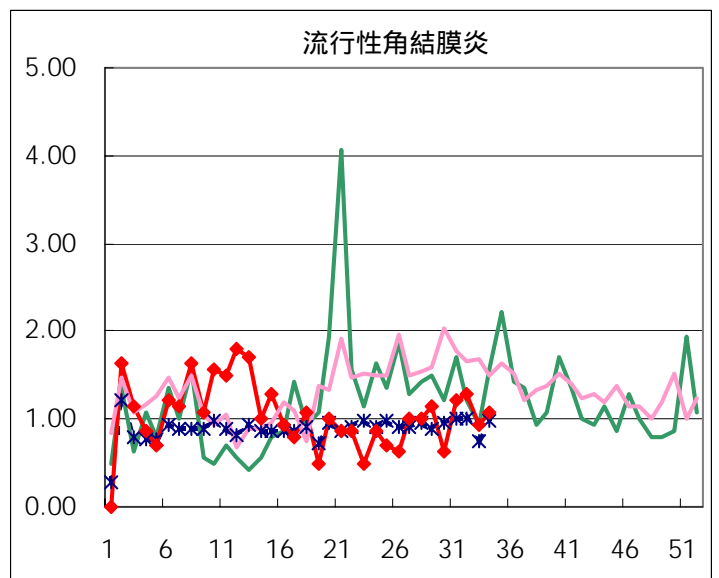
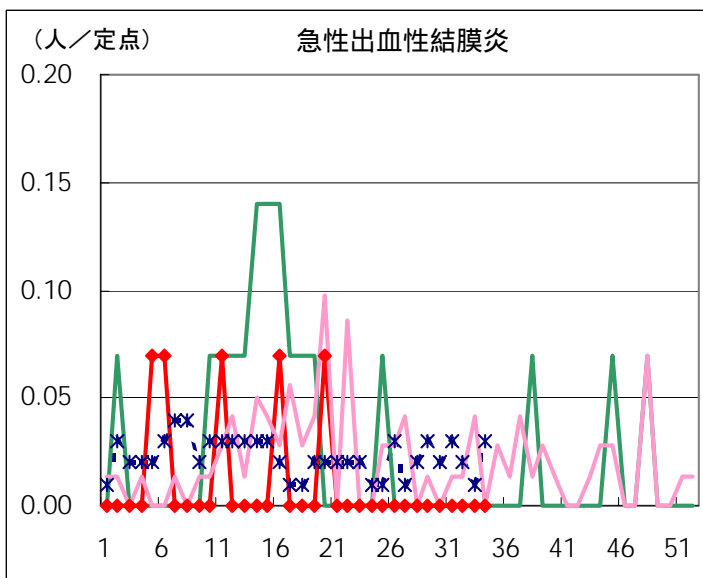
◆ 小児科・インフルエンザ定点



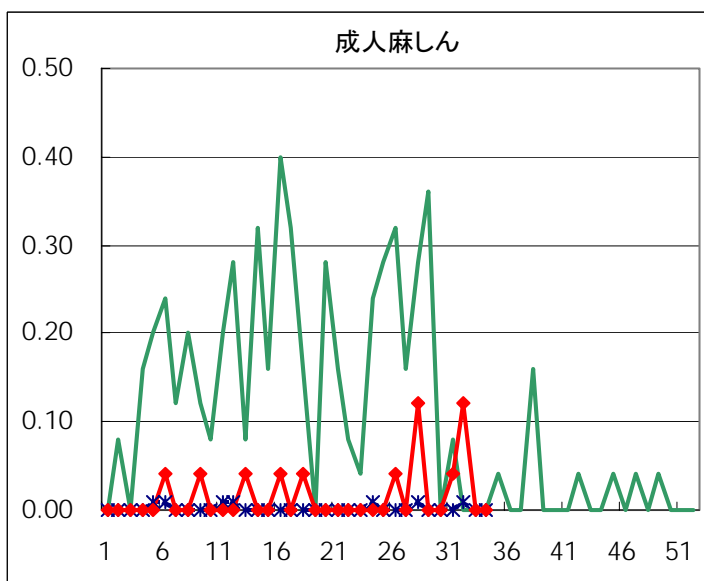
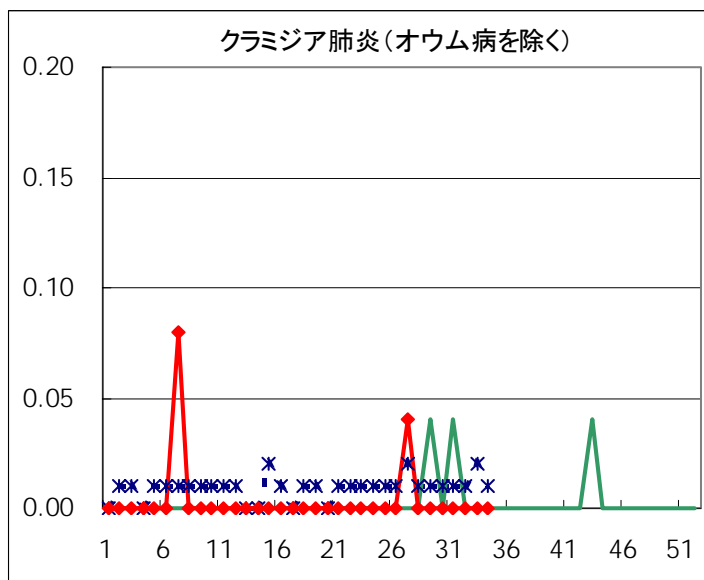
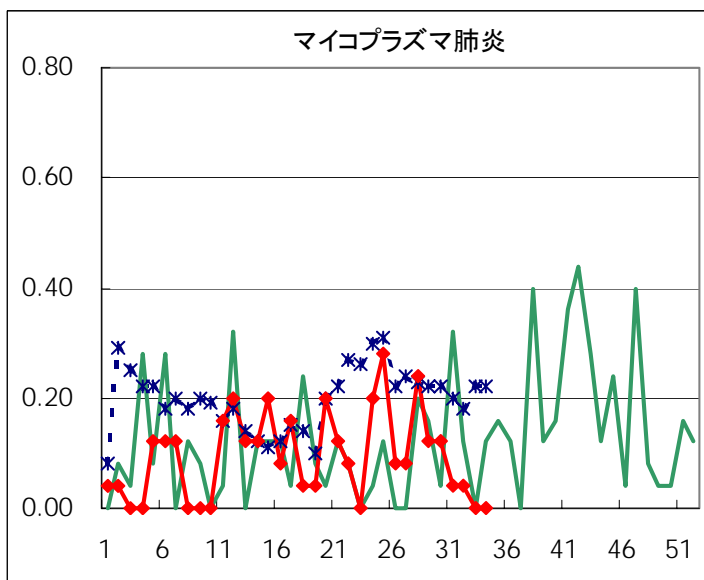
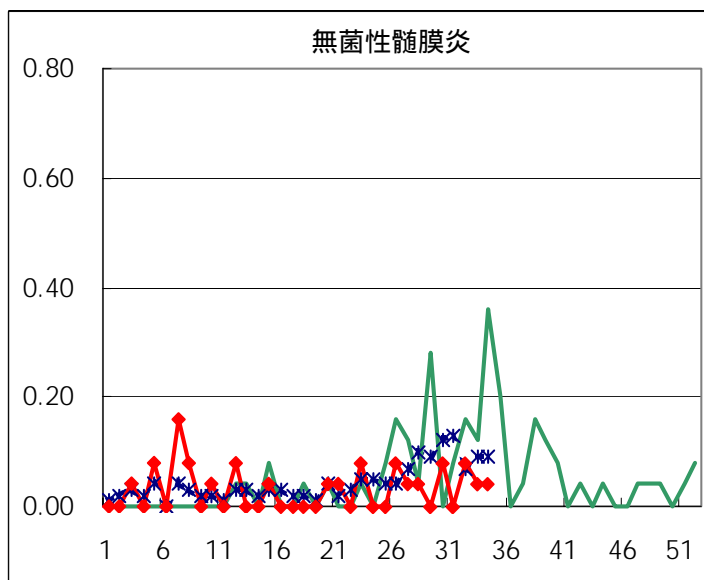
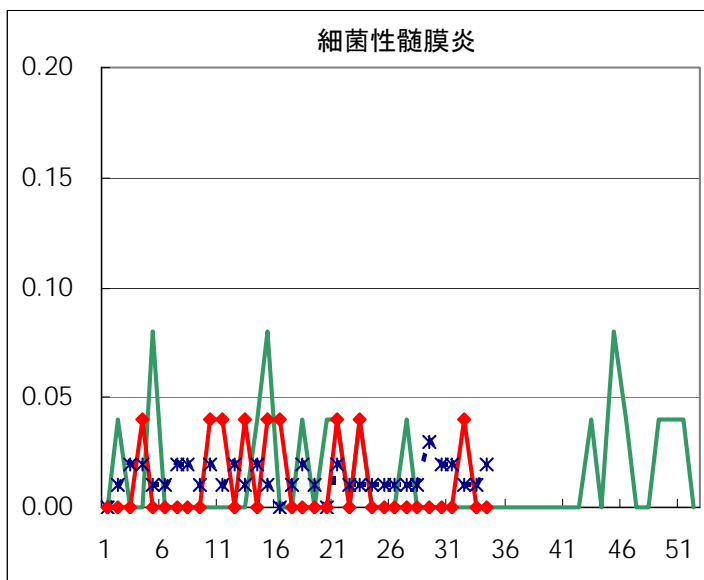




◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週報告分)		
定点種別	疾 病	医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	178
眼 科	急性出血性結膜炎	14
	流行性角結膜炎	
基 幹	細菌性髄膜炎	25
	無菌性髄膜炎	
	マイコプラズマ肺炎	
	クラミジア肺炎	
	成人麻疹	
小児科	上記を除く疾病	142

病原体検出情報

週別病原体・抗体検出結果(2004年27週～34週)

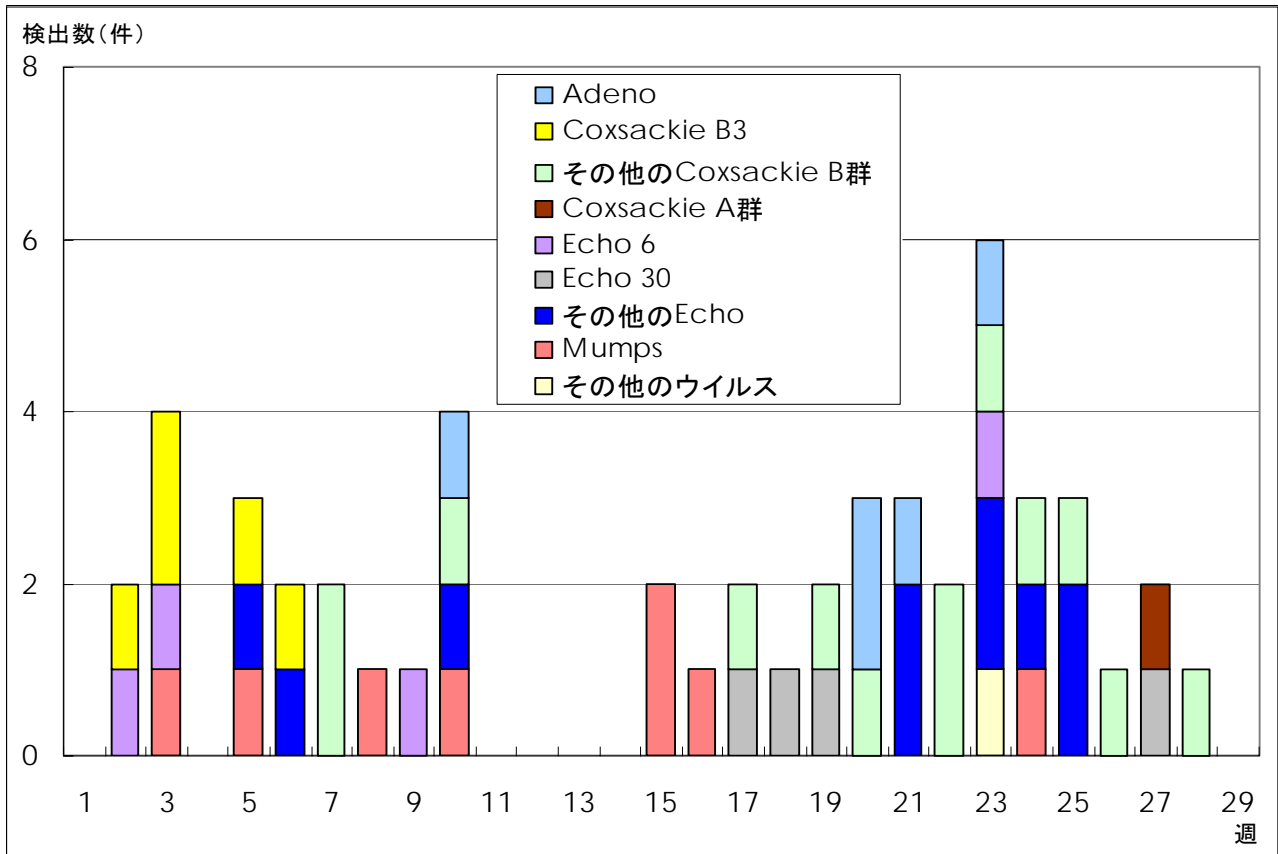
検出病原体・抗体		検体採取週								合計	
		2004年									
		27	28	29	30	31	32	33	34		
ウイルス	インフルエンザAソ連型										
	インフルエンザA香港型										
	インフルエンザB型										
	RSV										
	アデノ	1	6		4	8	6		5	30	
	エンテロ	5	7	7	8	2	5	4	10	48	
	ノロ		2			20		9	1	32	
	ロタ										
	単純ヘルペス							1		1	
	水痘・帯状疱疹										
	EBV				1	3				4	
	CMV						1			1	
	HHV6/7	1	5	4	2		1	1	4	18	
	ムンプス						1			1	
	麻疹										
	パルボB19										
	分離型別・遺伝子型別	ポリオ1									
		ポリオ2									
		アデノ1									
		アデノ2									
アデノ3											
エコー13											
エンテロ71											
コクサッキーA6											
ライノ			2					1		3	
抗体											
デング			1		1		1	1	4		
ツツガムシ											
細菌	カンピロバクター										
	サルモネラ										
	下痢原性大腸菌				2				2	4	
	エロモナス										
	O157										
	MRSAコアグラウゼⅠ型			1						1	
	MRSAコアグラウゼⅡ型	4	5			3	2	4	7	25	
	MRSAコアグラウゼⅢ型	1	1		1				1	4	
	MSSAコアグラウゼⅤ型							1		1	
	溶連菌T-1型										
	溶連菌T-3型	1								1	
	溶連菌T-4型	4						1	1	6	
	溶連菌T-6型										
	溶連菌T-12型	5						2		7	
	溶連菌T-22型										
	溶連菌T-25型				1	1		2		4	
	溶連菌T-28型	1								1	
溶連菌UT											
性感染症	梅毒	1	1	3			1	1		7	
	クラミジア抗体	29	4	38	9	16	10	13	17	136	
	クラミジア遺伝子	1		2	1			1		5	
	淋菌遺伝子							1		1	
	パピローマ		3	7	3	1	2	2		18	

臨床診断名別病原体検出結果（2004年27週～34週）

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ (インフルエンザを含む)	上気道炎	下気道炎	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	発疹症	流行性耳下腺炎	口内炎	水痘	その他	合計
インフルエンザAソ連型																	
インフルエンザA香港型																	
インフルエンザB型																	
RSV																	
アデノ		8	3	1		3			1		2	4				8	30
アデノ1																	
アデノ2																	
アデノ3																	
エンテロ		7	3	1		2	11	3	5	3		8				5	48
エコー13																	
コクサッキーA6																	
ポリオ1																	
ポリオ2																	
ムンプス																1	1
ノロ						32											32
ロタ																	
単純ヘルペス								1									1
水痘・带状疱疹しん																	
パルボB19																	
カンピロバクター																	
サルモネラ																	
下痢原性大腸菌						4											4

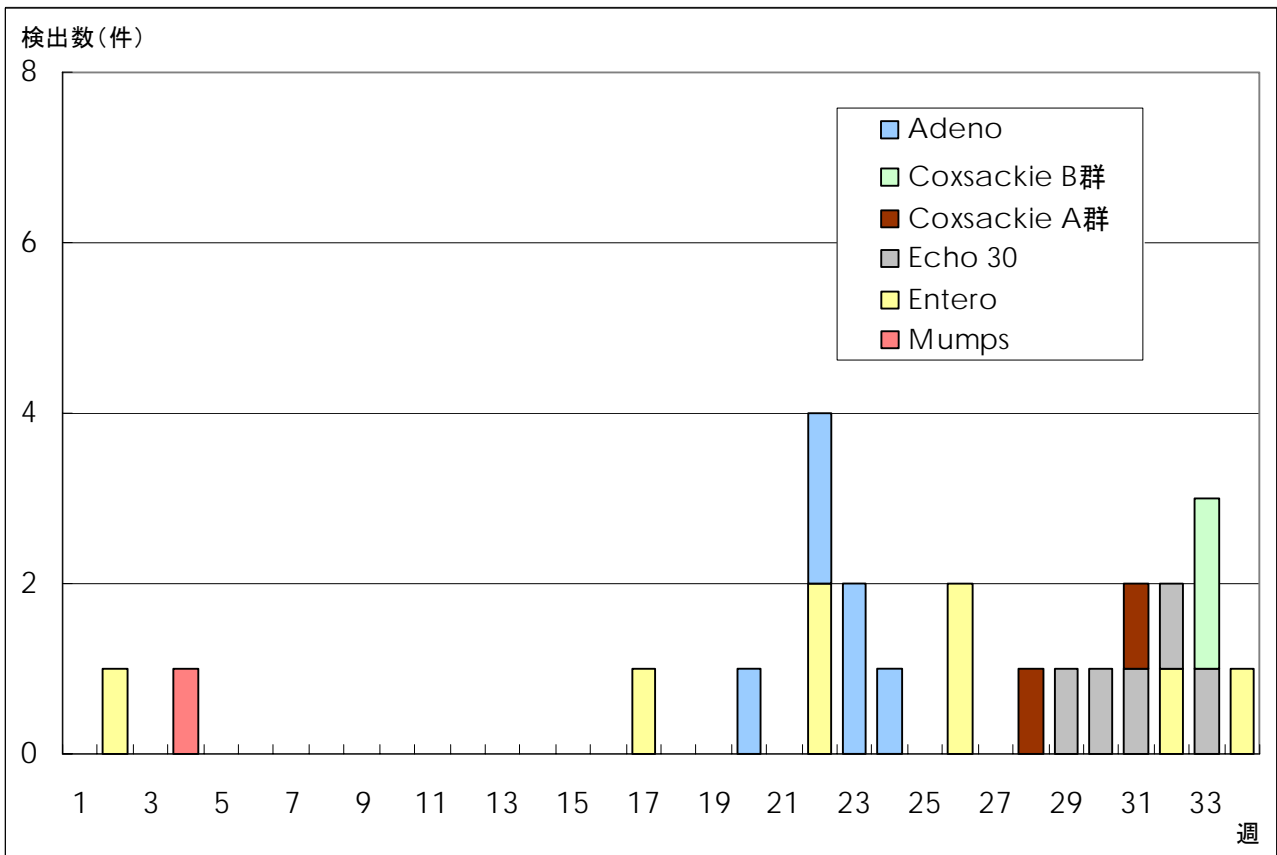
病原体グラフ (無菌性髄膜炎)

無菌性髄膜炎患者から検出されたウイルス(全国)



IASR 病原微生物検出情報 (2004年7月23日現在報告数)

無菌性髄膜炎患者から検出されたウイルス(東京都)



微生物部ウイルス研究科

年齢階級別報告数 2004年 34週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～6ヶ月					6		1		5
～1歳			1	1	19	1	3	2	37
1歳			6		24	3	14	1	19
2歳			6	3	18	13	14	2	1
3歳			9		11	9	9	3	2
4歳			3	4	23	5	6	4	
5歳			3	3	13	1	3	6	
6歳			3	2	10	1	1	3	
7歳			5	1	11		1	1	
8歳			4	1	2	1			
9歳					11	1			
10～14歳			1	4	20		1	1	
15～19歳			1	2	3				
20～29歳	2		3	3	39		2	2	
30～39歳									
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	2	-	45	24	210	35	55	25	64
先週比	0	0	-1	6	-18	0	-21	-1	-14

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻し んを除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～6ヶ月									
～1歳		2	2		1			1	1
1歳		1	25	1	9			2	
2歳			15		5				
3歳			15		9		1		
4歳			3		10		2		1
5歳			5		6		1		
6歳			1		9				
7歳			1		14				
8歳			1		2				
9歳					1			1	
10～14歳			1		5				
15～19歳			2		4				
20～29歳		1	2		2		3		
30～39歳							4		
40～49歳									
50～59歳							1		
60～69歳							2		
70～79歳							1		
80歳以上									
合計	-	4	73	1	77	-	15	4	2
先週比	-2	3	-75	1	30	0	2	-3	2

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別報告数 2004年 34週

	RS ウイルス 感染症	インフル エンザ	咽頭 結膜炎	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田						1	1		2	
中央区				1					2	
みなと	2		6	3	4	1	1		2	
新宿区			3	1	15	3		1	3	
文京										
台東					3		7	4	4	
墨田区				1	4					
江東区			1	2	11	3	3		1	
品川区				4	11			1	1	
目黒区					1		1	2	2	
大田区			2	1	12			1	3	
世田谷区			1		12		2	3	4	
渋谷区			2		13			2	1	
中野区			1	3	12	1	1	2	3	
杉並				1	5				1	
池袋							1		2	
北区			6		4		7		2	
荒川区					3	1			1	
板橋区			1		9		1			
練馬区				2	9	1			3	
足立			3		9	1	2			
葛飾			3	1	4	7	5	1	5	
江戸川			1		3	1	2		2	
西多摩			4		1	2		5	3	
八王子										
南多摩					19	2	1	1	8	
町田				2	6	2	7			
多摩立川			1	1	12	2	1			
多摩府中			1		6	2	3		2	
多摩小平			9		22	5	9		7	
島しょ				1				2		

東京都合計	2	-	45	24	210	35	55	25	64	-
定点当り報告数	0.01	-	0.32	0.17	1.48	0.25	0.39	0.18	0.45	-

保健所別報告数 2004年 34週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻し んを除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS	合計
千代田				7					11
中央区				2					5
みなと		1		1					21
新宿区		3	1	2		5			37
文京						2			2
台東				1					19
墨田区				1				1	7
江東区		4		3					28
品川区	1	3		3			1		25
目黒区				4					10
大田区		3				1			23
世田谷区		5		6				1	34
渋谷区		3		1					22
中野区		2		1					26
杉並									7
池袋				1					4
北区		11		1					31
荒川区				7					12
板橋区				2					13
練馬区		1		2			1		19
足立		2		5					22
葛飾		2		4					32
江戸川		1		2					12
西多摩	3	8		4					30
八王子						4			4
南多摩		9		4			1		45
町田		1		5		1	1		25
多摩立川				3					20
多摩府中		7		1					22
多摩小平		4		4		2			62
島しょ		3							6

東京都合計	4	73	1	77	-	15	4	2	636
定点当り報告数	0.03	0.51	0.01	0.54	-	1.07	0.03	0.01	

保健所別報告数(定点当たり) 2004年34週

	RS ウイルス 感染症	インフル エンザ	咽頭 結膜炎	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田						0.25	0.25		0.50	
中央区				0.33					0.67	
みなと	0.33		1.00	0.50	0.67	0.17	0.17		0.33	
新宿区			0.50	0.17	2.50	0.50		0.17	0.50	
文京										
台東					1.00		2.33	1.33	1.33	
墨田区				0.33	1.33					
江東区			0.33	0.67	3.67	1.00	1.00		0.33	
品川区				0.67	1.83			0.17	0.17	
目黒区					0.33		0.33	0.67	0.67	
大田区			0.22	0.11	1.33			0.11	0.33	
世田谷区			0.13		1.50		0.25	0.38	0.50	
渋谷区			0.50		3.25			0.50	0.25	
中野区			0.17	0.50	2.00	0.17	0.17	0.33	0.50	
杉並				0.17	0.83				0.17	
池袋							0.20		0.40	
北区			1.50		1.00		1.75		0.50	
荒川区					1.50	0.50			0.50	
板橋区			0.17		1.50		0.17			
練馬区				0.40	1.80	0.20			0.60	
足立			0.75		2.25	0.25	0.50			
葛飾			0.75	0.25	1.00	1.75	1.25	0.25	1.25	
江戸川			0.25		0.75	0.25	0.50		0.50	
西多摩			0.80		0.20	0.40		1.00	0.60	
八王子										
南多摩					6.33	0.67	0.33	0.33	2.67	
町田				1.00	3.00	1.00	3.50			
多摩立川			0.17	0.17	2.00	0.33	0.17			
多摩府中			0.10		0.60	0.20	0.30		0.20	
多摩小平			1.50		3.67	0.83	1.50		1.17	
島しょ				1.00				2.00		

東京都合計	2	-	45	24	210	35	55	25	64	-
定点当り報告数	0.01	-	0.32	0.17	1.48	0.25	0.39	0.18	0.45	-

保健所別報告数(定点当たり) 2004年34週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
千代田				1.75				
中央区				0.67				
みなと		0.17		0.17				
新宿区		0.50	0.17	0.33		2.50		
文京						2.00		
台東				0.33				
墨田区				0.33				0.33
江東区		1.33		1.00				
品川区	0.17	0.50		0.50			0.17	
目黒区				1.33				
大田区		0.33				1.00		
世田谷区		0.63		0.75				0.13
渋谷区		0.75		0.25				
中野区		0.33		0.17				
杉並								
池袋				0.20				
北区		2.75		0.25				
荒川区				3.50				
板橋区				0.33				
練馬区		0.20		0.40			0.20	
足立		0.50		1.25				
葛飾		0.50		1.00				
江戸川		0.25		0.50				
西多摩	0.60	1.60		0.80				
八王子						4.00		
南多摩		3.00		1.33			0.33	
町田		0.50		2.50		1.00	0.50	
多摩立川				0.50				
多摩府中		0.70		0.10				
多摩小平		0.67		0.67		2.00		
島しょ		3.00						

東京都合計	4	73	1	77	-	15	4	2
定点当り報告数	0.03	0.51	0.01	0.54	-	1.07	0.03	0.01

ツベルクリン反応と結核予防法

1951年に制定された結核予防法は当時としては世界に冠たる結核予防法といわれ、この法律が完全に実施されるようになった1962年以降我が国の結核は急速に減少した。この法律においては定期および定期外BCG接種の前にツベルクリン反応検査を行い、その陰性者に対してBCG接種を行うと定められていた。しかし近年の結核予防に関する知見の蓄積、患者特性の変化といった結核対策を取り巻く状況の変化を踏まえ、2004年6月結核予防法が改正され、2005年4月1日より施行されることになった。

改正の要点はいくつかあるが、特に乳幼児に関係する部分について述べると、ツベルクリン反応を行わずにBCG接種を行うことになった。この方法はフランスやアジアの一部の国々でも行われているが、その利点はツベルクリン反応には疑陽性が見られる場合があり、それによる不必要な予防内服の弊害があること、ツベルクリン反応を行うと2日後に再び接種会場へ行かなければならず、BCG接種の機会を失う者が出易いが、これを防げること、である。また既感染者にBCG接種をすると局所に強い反応が起こり得るが、そのことから既感染を推定出来る。

こうして今回の改正結核予防法においてツベルクリン反応という語句は一切出てこなくなった。もっとも接触者健診においてはツベルクリン反応は、最近開発されている血清学的診断法(Quanti FERON-TB法など)と共に活用され続けるだろう。

(文責・長山 直弘)